

言 演

第 23 卷 第 11 號 昭和 12 年 11 月

支 那 事 変 に 就 て

(昭和 12 年 9 月 24 日土木學會第 76 回講演會に於て)

陸軍歩兵少佐 大 久 保 弘 一*

On the Chinese Incidents

By major, Kōiti Ōkubo.

要 旨 本文は北支事変より進展して中支南支に全面的に戦線を擴大しつゝある支那事変に就て其の原因、過程及其の將來に關して述べたものである。

支那事変も段々と進展をして参りまして、最近に於ては我が軍の破竹の如き進撃に伴ひ、支那軍は至る所の戦線に於きまして敗退又敗退、殆ど戦意を喪失して潰走して居るやうな状況でありまして、殊に本日(9月24日)は北支方面に於て長らく目標と致して居りましたところの保定を美事に占領致しました。それで先づこの方面に於ては敵の作戦を殆ど決定的に叩きつけた譯でありまして、これから日本軍が如何にこの膺懲の矛を進めて行くかといふ先が見えて参りました。大体この事変の全貌につきましては、皆様今日迄色々の方面なり、或は新聞等で御承知と思ひますので、その邊は成るべく省きまして、只今から専ら色々の情報を綜合して得ましたところの現在の情勢並に將來の見通しといふやうな事柄につきまして、皆様の御参考になりさうなことを申上げて見たいと思ふのであります。

大体地図につきまして現在どういふやうな態勢に在るかといふことから話を進めて参ります(地図を指しながら話す)。御承知のやうに戦場は北支方面と上海方面との二つに分れて居ります。尙海軍としては中支南支一帯に對しても活躍して居るし、又海岸線全部の封鎖といふこともして居ります。先づ北支がこの事変の發端の地でもありますし、又我が國に取つて最も重要な地點でもありますので、この方面の戦況から申上げて参ります。

北支も大体戦場としては三つに分れて居ります。それは平津地方を中心にして鉄道が一つは綏遠の方向に行つて居る所謂平綏線の沿線地方、これが一つの戦場である。もう一つは北平から漢口に通ずる平漢線の沿線が一つの戦場である。もう一つは天津から浦口に通ずる津浦線の沿線と、斯ういふやうに戦場が三つの方面に分れて居る。大体我が軍はこの平津地方に於ては、あの暴虐非道極りなかつたところの 29 軍に徹底的膺懲を加へてこれを驅逐し、この方面は完全に我が勢力下に收め、治安の維持にも努めて居るのでありますが、その後支那の中央軍はどんどん北上し、又この附近に居つた軍隊も一緒になつて永定河南方の地區に堅固に陣地を構築して居りました。中でも今日占領した保定は北支に於ける最も重要な地であり、又堅固なる據點であつて、ここは數年前より支那軍があらゆる研究を重ねて最も堅固に陣地を構築して居つた所でもあります。今回もこゝを中心にして殆ど永久的の陣地を造り、これと連繫してその東方の滄州といふ所に亘つて堅固に陣地が出来て居りました。又この前方にも後方にも、何線も陣地を構築して、こゝで極めて頑強な抵抗をする作戦で居つたらしいのであります。この邊に集つて居りました敵の兵力は約 35 萬と言はれて居りました。尙この後方、甌海線の近く、或は濟南から南方の附近に

* 陸軍省新聞班勤務

も若干の部隊が集つて居るのであります。

それで我が軍としましてはこの南方の敵を纏て驅逐しなければならないといふので、あらゆる準備を進めて居つたのでありますが、この時敵は更に山西やその西方の陝西方面を通じて段々又中央軍を北上させて、綏遠や察哈爾の方面に約 10 萬からの兵隊を集めて來た。これは纏て滿洲國との境をも脅かし、又北支の直ぐ北方をも脅かすやうな態勢に迫つて居つた。それで我が軍としては先づ北方の後ろに迫つて居る敵を追拂はなければならないといふので、先般來南口から張家口に亙るこの險峻な山地一帯に據つて居つた敵を猛烈に攻撃した。さうして今ではこの平綏線は勿論のこと、この山の中に蟠居して居つた約 7 萬の軍隊を完全に驅逐して、これより南下をして山西の北部にある大同から一帯の間を占領して居ります。敵はこゝで大分澤山の兵が殺され残り少なくなつて、辛うじてこの附近に持ち堪へて居るといふ状況であります。尙綏遠の方向にも現在 2,3 萬の者が居るやうであります。これに對しては専ら内蒙古の軍隊が當つて居りましたが、今では我が軍も共にこの綏遠を目掛けて進撃中であります。纏て綏遠が我が手に落ちるも遠くないと思ひます。平綏地方は大体要點をすつかり我が軍が取つてしまひましたので、北方に對する脅威は全く無くなりました。我が軍はこれからは安じて南方に對して作戰をすることが出来るのであります。

それで先般來平漢線並に津浦線方面に總攻撃が開始せられまして、津浦線は遑早く靜海から馬廠方面に前進し平漢線方面は少し後れましたが、今や破竹の勢で前進して到頭保定を取つた。一方は滄州近く迄迫るといふ所に來たのであります。滄州も一兩日中に落ちるでありませう。この保定・滄州といふ線は支那側に取つては最も重要な地點で、こゝで以て徹底的の決戦を交へるといふ態勢で居つたのでありますから、今こゝが脆くも我が軍に占領せられることになる、敵はもう殆ど北支方面に於ては大きな戦をすることは出来ないものと思はれます。我が軍はこゝを占領したならば、これを據點として南方に作戰するのは極めて容易であります。又山西や山東方面に作戰する上に於ても極めて有利な態勢を占めることになるのであります。大体北支方面はさういふ風になつて居ります。

それでこの邊に居ります支那軍の状況を申しますと、第一線近くに居つたのは元々この邊に居つた雜軍が主であります。例へば萬福麟の約 3 萬 5 千の軍隊、或は馮占海の 2 萬の軍隊、それから宋哲元の殘黨、或は商震の約 2 萬 5 千の軍隊、さういふやうなものが主でありまして、その外には南方から上つて來た中央軍の孫連仲の約 3,4 萬のもの等が主であります。尙他に山東には韓復榘に屬する約 6 萬の軍隊が居ります。併しながらこの韓復榘はどちらかといふと灰色の態度を示して居りまして、積極的に我が軍に對抗するやうな状態が見えません。併しながら當初から蔣介石より嚴命を受けて居つて、徹底的に抗日作戰に協力せよと言はれて居るものでありますから、已むを得ずこの附近を動き廻つたり、或は陣地を構築したりして居つたが、併し何としてもこの戰爭に巻き込まれたくないといふやうな氣持を持つて居つて、元來ならば濟南からその邊一帯に居るのでありますけれども、こゝに中央軍がどんどん入つて來て、濟南邊にも現在中央軍が居る。それでさういふものと一緒になつてしまつて戰渦に巻き込まれると大変だといふので、今ではこゝを避けて端つこの方に小さくなつて居ります。要するに旗色を見て居つて、日本軍の方が工合が好いやうだつたら日本軍の言ふことを聽くといふやうな、極めて曖昧な態度を取つて居るのではないかと思ひます。これに反して山西軍は、これも本來ならば地方軍閥で、蔣介石の指揮下に在るよりは地方の職權として安穩に暮らして居りたいといふ性質のものであるから、矢張り同じ態度を取つて居べき筈であります。併しながら偶々中央軍が山西の中を通過して約 6 箇師團ばかり北上した。さうしてこの邊を荒し廻り、続いて又日本軍にそれが追駈けられて逃げ歸つて來るといふやうな譯で、すつかり戰亂の中に卷

き込まれてしまひました。仕方なしに山西の閻錫山は一緒になつて全線を指揮して居る。その外別に昨年来中央軍と協力して行動するやうになつた共產軍、これ等が合同して約 5 萬ばかりこの邊に居るのでありますが、この中の若干のものがずつと北上して綏遠方面に来て居るといふ噂があり又極く一部のものは大同附近の我が前方にも居つたやうであります。斯の如くしてこの北支全体に居る敵の兵力は合計約 5,60 萬になるのでありますが、この中、中央軍と名づけるものは餘り澤山は居りません。先づこの附近を合せて 15,6 萬でありませう。

次に上海方面であります、この揚子江は幅が 4 里あります。その支流の黄浦江は上海の町の中を通つて居る。我が居留民の主として居るのは共同租界であります。陸戦隊が久しく孤軍奮闘して居つた當時上海附近に集つて居つた敵の兵力は約 10 餘萬、その中數萬の者が上海の町の中迄入り込んで我が陸戦隊や居留民を脅かして居つた。尙この邊一帶は上海が支那に取つて極めて重要な地點である關係上、非常に防備を嚴重にしてこの河口から河岸全体に極めて堅固な陣地を構築して居りました。この方面から一兵も上げないといふ位の姿勢を取つて居つたのでありますが、これを救援する爲に我が軍は愈々陸軍を派遣して、陸海共同の敵前上陸行動に依りまして〇〇と〇〇の地點から上陸をしました。さうして戦果を逐次擴張して、段々この邊の陣地を占領して敵を驅逐しつゝ前進して居ります。

それにしても我が軍は上海方面では非常に攻撃前進に苦心を致して居ります。それといふのは敵はこの邊に特に平時から堅固な陣地を造つて居つたといふばかりでなく、この邊一帶の地形が非常に複雑して居りまして、御承知のやうにあそこには無数のクリークと名づける溝が堀つてあります。さうして前進も困難であるし、又至る所に部落が無數に散在して居つて、のつぺらした野原や畑ではないのであります。支那獨特の堅固な土造りの家が無數にあつて、先が見えぬやうな状態であります。その各部落毎、家屋毎に、クリークを利用して陣地をピッシリと構築して居るから、これを攻撃するのは恰も要塞を攻撃する如く、非常な苦心を重ねて居るのであります。それでも段々と大分前進しました。唯共同租界の直ぐ北方、これは特に堅固な澤山のトーチカ迄構築してやつて居りますから、一番暇が掛つて居ります。トーチカといふのは近代的小さな堡壘でありまして、ベトンで以て周圍をすつかり固め、單に周圍ばかりでなく飛行機に對して上方迄安全に造つてある陣地であります。現在敵は汀灣鎮、爆彈三勇士で有名な廟行鎮、こゝに有力な者が居る。続いてその後方大場鎮、劉家行といふ所にも相當の者が居る。上海附近はまだ前方の前進陣地とでも名づけますが、敵の本陣地と申します敵が最も頑強に抵抗しようと計畫して居ります陣地は、北は劉河行鎮からずつと嘉定、南翔を経て上海の隔北に亘る線であります。こゝは殆ど半永久的の防禦陣地が構築してありまして、又澤山な兵力が配置してあります。こゝ一帶に集められて居る兵力は段々と我が軍上陸以來増加されて、現在では 20 數萬に達して居ります。而もこの 20 數萬の敵は北支方面とは違ひまして、何れも中央軍の精銳でありまして裝備訓練共に優良であります。又この上海は支那に取つて最も重要な地點であるといふ關係上、何でもかんでもこゝは取られないやうにしなければならぬといふので、兵の意氣込が違ひます。蒋介石は最近大分前線が我が軍に驅逐せられて居りますので、嚴重なる命令を下して現在持つて居る第一線を一步と雖も退つてはならない。若し退る者があつたならば銃殺をする。指揮官隊長等にして部下の退却を大目に見て居るやうな者があつたならば、これ亦同罪として銃殺するといふやうな嚴命を下して居りますが、併し我が軍の果敢なる攻撃には如何ともすることは出來ず、抵抗をしつゝ逐次退つて居るのであります。それで支那軍は更にこの退却を防止する爲に所謂督戰隊といふ退却する者を後から機關銃で難倒す軍隊迄配置して、第一線を督勵して居ります。併しながら北支方面と同様に南支方面に於きましても、我が軍は單に勇猛果敢に攻撃して居るといふばかりでなく、近代の有らゆる優良なる兵器を澤山に配置して猛烈なる機械的威力を遣

憾なく發揮して、目茶苦茶に向ふを破壊しながらやつて居りますので、敵も道がにこの大威力の前には全く怯えてしまつて、殆ど第一線の者は戰意を失つて居るやうであります。最近段々と我が軍に投降して來る者があるし、又降つて來る前に指揮官を殺して逃げて來た者もある。又捕へた捕虜を調べて見ると彼等はもう近頃は飯も食へないで弱り切つて居る。とても將來頑強に抵抗を続けて行くことは出来ないといふやうな状態にすら置かれて居るやうであります。だからこゝで 20 何萬が最後の抵抗をする積りで居るかも知れませんが、我が軍も元よりさう手ブラで居る譯でない、依然として猛然たる破壊をしつゝ進撃して參りますから、又大した抵抗なくして突破出来ると思ふのであります。

斯の如く北支に於ても南支に於ても、最早勝敗の數は明かに見えて居ります。殊に支那軍は第一線の兵士が非常に怯えてしまつて戰意を失くして居るといふばかりでなく、斯の如く敗けて參りますと軍隊全般の統率といふことは困難になつて來るのであります。もう北支でもこの上海方面でも殆ど目茶苦茶ださうであります。大体いふ狭い地域に何十萬といふ大變な兵を集めますと、平素から顔を合して居るチャント連絡のある仲間ばかりでなく、至る所から掻き集めて來たものでありますから、連絡もよく取れないし、とても満足な統制は行へないのであります。況んや混亂して參りますからもう指揮官同士が喧嘩を始める、屢々指揮官が争つて居る状況が現れて來て居る、殊に待遇が悪くなつて來る。俸給を貰へない、食糧も下らない、食糧どころでなく飯そのものが食へないといふことになつて來ると、もう軍隊の士氣も何も總て目茶苦茶になる。支那兵は大体傭兵でありまして、給料は兵隊ならば月額 8 円位貰ふことになつて居る。その内隊から飯を食はして貰ふので食費 6 円を差引かれて、2 円だけ貰ふことになつて居るのださうであります。ところがその 2 円も近頃はとても拂つて貰へないで、捕虜に付て調べて見ますと昨年 11 月から今日迄その 2 円を貰つたのはたつた 2 回だけで、最近では飯も三度三度食はして貰へない。1 日に 2 回しか呉れなくてあとはそこらで搔拂つて食へといふことになつて居るのださうであります。支那兵は大体その邊の駐屯して居る所から勝手に取つて食ふのが原則になつて居りまして、その近邊の部落を食ひ荒して居るのであります。斯の如く數箇月に互つて長く滯留して居ると終ひには食ひ物がなくなつて困つて來る。捕虜などに聴きますと 3 日も 4 日も飯を食はないで飢えて居る者が随分あるやうであります。さういふところから内部的に崩潰をしまして、とても頑強な抵抗を続けるといふことは困難になるのであります。

それで大体戦争の目鼻がついて參りましたので、支那當局に於きましても大分考へて來ました。今日迄長らくの間身のほども知らずにいきり立つて居つたところの支那の軍隊は勿論のこと、又虚構の宣傳に依つて徒らに民衆を瞞しながら煽つて參りましたところの國民政府も、もうとても日本と本格的に對抗するといふことは出来なくなつたといふことを覺りまして、近頃は宣傳なんかにしても本當のことを傳へて居る。今迄は敗けても敗けたといふことはすつかり隠して置いて勝つた勝つたと言つて、嘘ばかり宣傳して民衆を煽つて來たのであります。近頃は新聞でもラヂオでも、本當にどこそこでは敗けて居る。或は非常に困難をして居るといふやうなことを傳へて居ります。それで今月 15 日でありましたか、中央に於ては再び蔣介石が國防會議を開いたのであります。愈々これから先どうやつて行くかといふ問題であります。それに對して陸軍大臣の何應欽は最早こゝ迄來ると、とても戦争は続けられないから、この邊で和睦をしてはどうかといふ提案をして居ります。ところがそれに對して蔣介石はまだ和睦は出来ない。一般情勢上今和睦するといふことはとても出来ない。さりとて日本軍と正々堂々の戦をするといふことも出来ないから、已むを得ず緩徐な抵抗を続けて行かう、所謂長期抗日をいつ迄も続けて行かうといふやうな意見で、なかなかこの間の 15 日の會議は纏らなかつたさうであります。続いて 17 日に又続の會議をやりました。これ亦意見が纏らず、その儘ずると長期抗日を続けるといふ行動を取つて居るのであり

ます。大体支那は初から正面衝突をやつても日本の前には敵することが出来ないから、所謂長期作戦をやつてぢりぢりと日本軍をやつて行かう。長い間抵抗を続けて居つたならば恐らくは日本も尻古垂れるであらう。又その内には諸外國が干渉をして来てくれるであらう。就中ロシアあたりは日本が長い間支那との戦争に引つかゝつて居つて武器彈藥、或は澤山の金を費し戦闘力を減らし、又國力を衰へさせるといふことになつたならば、必ずロシアが起つて日本を押へてくれるに違ひないといふやうなことを一縷の望みにして、専ら長期抗日を持続する決心で居つたのであります。さうしてその間には所謂ゲリラ戦法と申しまして、不規則な極めて遊撃的な戦法を行つて日本軍を悩まさう。或は便衣隊を使ひ或は共産黨と合作をして、又内部的に我が國內にも策動して日本を弱らせよう。さういふやうな極めて卑怯悪辣なる手段に依つて、日本をぢりぢり痛めつけようといふやうな戦法を取つて来たのであります。

それでこれから先もそれを又続けて行かうとして居るのでありますが、これに對して長期抗日を支那が賣つて居る通りにどこ迄も援助しようといふ態度を取つて居るのはロシアであります。ロシアは前々から日本と險惡なる關係にありまして、今にも日ソ戦争が起りはせぬかと思はれるやうな状態に迄一時なつて居つたのであります。偶々先般國內にトハチュフスキー元帥以下大勢の者が選挙せられ銃殺せられるといふやうな事件が起つて、大分國內が動揺しました。続いて赤軍全般に對して猛烈な肅正工作が行はれまして、未だに極東方面に於きましても、段々と多くの人を檢舉したり銃殺したりすることが続けられて居るのであります。それで斯ういふやうなことをやりますと國內は非常に動揺して、とても今直ちに戦争をやるといふ譯に行かない。それでロシアとしては成るべく斯ういふやうな國內に不安がある時機には、日本のこのロシアに向つて居る全意識を外に向けて緩和したいといふ希望を持つて居つたのであります。偶々この事変が突發した。ロシアはこれを非常に好いことにして支那内部をどんどん突つて抗日意識を益々煽り、この事変を愈々擴大するやうに仕向けまして、さうして到頭今日迄の戦争になつて来たのであります。更に支那の長期抗日作戦を積極的に助けて日本の力を全部支那の方に向けてしまへば、ロシアは全く安心して自分の國內を整へ、又次に備へるところの國力を養ふことが出来るといふので、専ら支那を外部から助けてどんどん日本軍に打突かり、さうして日本の國力を消耗して行くやうに努めて居るのであります。

斯ういふ點から考へて見ますと、今度の事変といふものは背後からロシアが非常に根強く入り込んで居る。事に依つたら今度の事變の勃發はロシアの計畫した謀略ではないかと迄考へられるのであります。假令これがロシアの謀略でないにしても、ロシアがこゝ迄深く入り込んで居るといふことは將來のこの事變の解決に非常に重大な關係を持つて来る譯であります。それで支那が希望して居る如くロシアは既に先般不可侵條約を結びましたが、その蔭に於て何等かの密約がないとも限らない。又實際に於きましても既に外蒙古を通じて支那の内部に大分澤山の飛行機や兵器彈藥などを送つて来て居るやうであります。又極く最近には浦蘆からも飛行機、戦車、高射砲水雷艇 2 隻、それから機關銃、彈藥といふやうなものを相當澤山船に載せて香港に向けて出發させて居るやうであります。これもロシアの旗を立てゝ來ると又拙いと思つて、ギリシャの旗だのフランスの旗だのを立てゝ糊麻化して居る。斯の如きことはこれから先も相當頻繁に続けられると思ひます。これが爲にロシアの極東軍司令官ブリュツヘル將軍は、この事變が起きると逸早くハバロフスクを去つて行方不明になつて居りましたが、よく調べて見ると外蒙古の庫倫に来て居りました。さうしてそこで支那の代表者と會見し、又この事變に如何に對応するかといふやうな策動をして居つたやうであります。最近この北支方面に支那の飛行機が時々來て飛び廻るやうになつた。殊に河南省の西安には相當の飛行機があるし、又我が海軍に依つて支那各地の飛行場は目茶苦茶にやら

れ、飛行機もやられてしまつた筈であるのに、近頃依然として相當活潑に飛行機が飛び廻つて居るといふのは、これは最近ロシアから相當澤山の飛行機が來たといふことを物語るものではないかと思ふのであります。何でもロシアから支那に對して 800 臺の飛行機が送られて來たといふ説もあります。それが各地にバラ撒かれたのでせう、今迄北支附近で日本軍が盛んに活躍して居ります。當初支那には相當澤山の飛行機があるに拘らず 1 臺も飛んで來ない。それといふのは大体飛行機は平素から 800 臺も持つて居つた筈でありますけれども、その内本當に飛べるのは餘り澤山なかつた。200 臺位しかなかつたといふことも本當らしいし、殊に支那では操縦士が居らないで非常に困つてゐた。約 500 名の操縦士がアメリカやイタリーなどの教官の指導に依つて出來て居るのでありますけれども、これ等の操縦士はまだ本當に戰に参加するやうな技術を持つて居らない。本當に役に立ちさうなのは僅かに 80 名位しか居らなかつた。それで中支附近がやられる時にそれ等の大事の飛行士は取つて置いて、北支方面へは飛ばすことが出來なかつたらしいのであります。然るに最近中央軍がやられて居る大事な時であるに拘らず北方山西の山の中迄も飛行機が飛んで來るやうになつたといふのは、これは新しくロシアから飛行機が來、又操縦士も相當に來て居るといふことを證據立てるものであります。我が國內に於ても元々支那は貧弱な空軍であつて、とても支那海を渡つて我が内地を空爆するといふやうなことは絶対に出來ないとタカを括つて居つたのであります。最近はさうも行かなくなつた。關西方面は勿論のこと關東一帯に迄も防空上の警戒をしなければならぬやうになつたといふのは、一に外國の飛行機と飛行士が支那に相當にやつて來るやうになつたからであります。これはロシアの操縦士が來たといふばかりでなく、支那は逸早く世界各國に呼びかけまして、義勇兵の操縦士の募集を致しました。相當澤山の月給を出し又手當等を條件として、それで何でも歐米の各國の義勇兵で國籍を脱して応募して來て居る者が相當澤山居るといふ話であります。先般海軍が敵の飛行機と空中で戰闘をしましたが、その戰闘振がどうもこれは支那人ぢやない。歐米人に違ひないと思はれるやうなものがあつたさうであります。將來まだまだ相當これ等の者が活躍しはせぬかと思はれる。

尙この支那に對しては單にロシアばかりでなく、その外の國も兵器彈藥を賣り込んで間接に支那を助けて居るといふやうな者もある。これは故意に支那を助けようといふ意識でないにしても、平素の貿易關係で金儲の爲に兵器を賣込むのであります。これはイギリスもフランスもその他小さな他の國々もやつて居る。斯ういふやうに各國が支那を援助しますと矢張り日本には邪魔になる。それが爲に所謂長期抗日が継続せられるかも知れない。そこで我が海軍としては外國の船がどんどん支那に品物を貢ぐことが出來ないやうに、先般支那の全海岸を封鎖したのでありまして、これは確かに支那には可なり痛く響いて居るやうであります。その結果外國は餘り大きな顔をして兵器を持つて來る譯に行かない、外國の船は押へる譯に行きませんが、今支那に兵器を持つて來たならば、こちらで絶へずこれを監視して居つて上陸したところをガンガンやつけるし、又兵器などを人の眼の前で賣り込むやうなことがありますれば日本から睨まれると思ふてそれが心配で最近、途中で停まつたり引返した船もあるやうであります。

海岸方面は封鎖されましたが、まだ兵器を支那に賣り込むとしますと陸地方面に通路がないではありません。それは先程も申したやうに外蒙方面から綏遠の方に立派な自動車道路が出來て居りまして、どんどん連絡がつくやうになつて居ります。又ずつと西方新疆方面からも自動車道路が出來て居ります。又ずつと南の方佛領印度から雲南方面を経て南支に兵器を持つて來るといふやうな道もあることはあります。斯ういふやうな方面から逐次補充したならば、補充出來ぬこともない。併しながら斯ういふやうな陸地は非常な不便な土地であり、又遠隔な所でもありますから持つて來ると言つても大變であります。トラックに兵器を積んで見たところがタカが知れ

て居る。駱駝の背中に載せて来たなら、幾月掛かるか分らない。殆ど大したものを持つて来られない。飛行機の如きは空中輸送で持つて来られますから、割合澤山のものも来ることが出来ますが併しながらこれも空中を遙々飛んで来るとなると、自分に必要なガソリンだけで荷が重くて將來活躍するに必要な爆弾を澤山に積んで来るといふ譯には行かない。辛うじて1回分の爆弾は持つて来られるかも知れませんが、あとは続かない。斯うなつて来ると飛行機だけ来て爆弾のない飛行機は恐れる必要はない、殊に先般アメリカが支那と日本に對して武器を輸出することを禁止した。あれは日本よりも支那に取つては最も痛手でありませう。何となれば支那は自分の國で兵器を造る能力を持つて居らない。何から何迄全部外國から買はなければならぬ。辛うじて小銃や彈藥の一部を造ることが出来るだけでありませう。アメリカあたりに飛行機を始め重要な兵器を随分澤山頼んで居た。ところがそれがピタッと停められると全く戦をする譯に行かなくなる。それに反して日本は自分の力だけで相當出来ませうし、又外國から買ふといふ便利も、支那とはまるで違ひませう。斯ういふやうな實情を知りながらアメリカがあいふ禁令を出したといふことは支那を困らせ日本に好意を寄せて居ると見ても間違ひはないのでありませう。斯ういふやうな關係で支那は大分弱つて来て居ります。もうそろそろ軍需品も無くなつて来て、第一線あたりでも彈藥は残り少なくなつてしまつた。食ふ飯は僅かにあと2月を支へるに過ぎないから、食糧彈藥を送つてくれといふ悲鳴を擧げて救援を求めて居る指揮官もある。恐らく軍需品がなくなり、武器彈藥が続かなかつたならば、戦は出来なくなる。纏て支那が本當に降参したと言はなければならぬ時機が迫りつゝある譯であります。

大体支那は御承知のやうに非常に廣大な地域である。人口も澤山あるし、兵隊なんか平時で既に210萬も居るのでありませう、殊にこの事變が始つてからといふものは更にその邊に居りまする壯丁や若い者をどんどん徴發しまして、俄か造りの兵隊を随分使つて居るから、恐らく兵隊の頭數としては300萬も居りはしないかと思ふ。そこで今日北支方面に數十萬、上海附近に20餘萬居つて日本軍と對抗して居るのでありませうけれども、併しまだ支那の内部にはもつともつと澤山の兵隊が居る。南京附近もまだ數十萬居りませうし、その外各地にまだ澤山居る。だから假令この北支や上海で日茶苦茶にやられても、本當に参つたといふ所まで来ないかも知れない。殊に北支あたりに居るのは雜軍であつて、雜軍が全滅しても中央軍は大して痛手を受けない。又退却すれば幾らも陣地は平素から後の方に造つてある。ずつと奥の方迄逃げたら日本軍はさう追駈けて来ないだらう。又ここ迄追駈けて来ればまだ逃げる所は澤山あるといふやうな顔をして居ります。上海方面でもこゝで總攻撃に遭つて全滅にならぬ内に逃げてしまつて、蘇州、大湖といふやうな湖の澤山ある要害の地がある。そこに又堅固な陣地が造つてある。その線迄下つて抵抗するといふ手段もある。だから少しも困らぬ。假令これが全部全滅してしまつたところで、支那の2,300萬の兵隊から見れば1割にしかならない。大したことはないといふ顔をして居るかも知れぬ。さうなつて来れば我が軍としてはさう中の方迄入り込んで四百餘州を追ひかけ廻す譯に行かない。それは何程兵隊が居つても足りないし、いつ迄時日を要するか分らない。さうなつて来たならば所謂徹底的膺懲の目的を達するといふことは困難である。然らばどうしたらよいかといふ問題が残されます。だがこれは今日の戦の性質を知ればすぐ解決がつく問題です。今日の戦争は武力戦だけで敵をやつゝけるといふことは本来困難でありまして、これは何れの國が戦ふにも將來はさういふやうになるのでありませう。

凡そ戦争といふものは武力戦だけで解決のつくものでなくして、必ずや思想戦とか經濟戦とか政略戦とか、さういふやうなものが綜合されて全國力を以て戦はれることになるのでありませう。そこで支那に對してもこの武力戦のみで解決をつけるのでなくしてこれに合せて思想的にも經濟的にも政略的にも、あらゆる方面から支那がもう抵抗力を全く失つてしまつて、さうして日本に完全に降伏をするといふ所迄仕向けることが必要でありまして、現

在既にその手が進められて居るのであります。

第一に海岸封鎖したことに依つて、これは殆ど經濟封鎖も同じことで、もう中の連中は糶飯も食へなくなつてしまひます。既に食糧饑饉で第一線の兵隊さへ飯を食へないやうな状態にあるのであります。上海の町に於きましてもあの邊の田舎の者、或は閩北その他戦火の巷となつた方面の避難民がぐんぐん殺到して、100 萬以上も入り込んで目茶苦茶に荒し廻つて居る。食物はなくなつて物價も 3 倍以上に騰貴して居るさうであります。この邊は非常に豊饒な水田地帯でありまして、稻は今年は豊作でよく實つて居るさうであります。百姓共は逃げてしまつたから誰も刈る者が無い。軀て食糧の不足を來すことになる。又全般の經濟的にも第一斯うやつて支那が大きな戦をしますと、何としても先立つものは金である、軍事費が要る、我が國に於きましては今年一杯に 25 億といふ金を計上して、1 月約 5 億の豫算であります。支那と雖も矢張りこれに相當するだけの金が要るのであります。但し支那は飯を食つても唯あの邊を食ひ荒すだけで食費を拂ふ譯ではないし、兵隊の給料も拂はぬ。鐵道で輸送しても運送費も拂はぬといふ手がありますから、日本ほどは要りませんが、それでも相當の金が要る。

その金に既に行詰つて居る。彼は逸早くイギリスから借金をする爲に大藏大臣の孔祥熙が英國に行つて居つて盛んに奔走しまして約 3 億元の金を借りようとしたのですが成立しない。続いて國內に於て救國公債 5 億元を募集しました併し誰も応じ手が無い。1 人も買ふ者が居ない。已むを得ず中國銀行、中央銀行といふやうな政府直屬の銀行に強制的に買はせまして、やつと何千萬円だか出來たといふ話であります。これ又半月分の軍費にも足りない。あとどうするかといふと、もう外國も危ぶんで兵器を賣つてくれない。これから先は或は増税をするとか、今迄の貯金を全部押へてしまふとか、或は紙幣を濫發するとか、色々な方法が考へられるでありませうが、増税なんかとても出來るやうな餘裕はない。到る所苛斂誅求で以て 3 年分、4 年分先の税金を前取りしてしまつて居る。殊に甚しいのは 80 年ぶりも先の税金迄前取りして居るさうであります。さういふやうな狀況ではとても税金は取れない。結局紙幣増發といふ所に行くのでありませうが、さうなつたならば恐らく現在イギリスの援助に依つて流通して居るあの紙幣といふものは、もう紙屑になつてしまふ。あれが紙屑になつたならばもう國內は經濟的に目茶苦茶で大混亂が來、又暴動すら起りはせんかと思はれる。斯の如くして支那が内部的に崩潰する時機といふものはもう大分迫つて來て居ります。そこに思想的の宣傳も要るのでありまして、今日ロシアが大分入り込んで内面を盛んに攪亂し、殆ど支那の内部全体はロシアの共產黨員が引掻き廻して居ると申してもよい位でありまして、蔣介石も御自身の威令は殆ど行はれないで、親蘇容共派の巨頭でありますところの馮玉祥一派の勢力が最も重きをなして居る。さうしてさういふやうな共產黨の跳梁跋扈に依つて辛うじて、抗日意識を煽りながら對抗して居りますが、これに對しましては反對の勢力といふものも必ずや有り得るのでありまして、大体支那には浙江財閥といふ上海附近一帶の財閥に據つて居るところの資本主義系統の要人が澤山あります。或は孔祥熙とか、宋子文、蔣介石もその仲間であります。さういふ連中は共產黨とは本來思想が根本的に違ふ。反對的立場に立つて居る。又民衆も全部が全部共產主義になるとは絶対に思はれない。さういふやうな狀況で今迄共產黨は猛烈な抗日意識を煽つて、無理に日本に對抗させようとして居りましたけれども、斯うして敗けて參りますと、戰意が失くなる。又民衆も日本軍は支那軍よりも亂暴をしないと云ふ關係で日本に靡いて來るといふこともあり得るのでありまして、今日さういふ者を利用して我々の方で盛んにビラ撒きをやつて居ります。これは支那側でも矢張り左翼一派がやる手でありまして、先般日本の軍隊の方に変なビラを撒いて參りました。見ると「日本の兵隊よ、お前達の故郷ではお父さんお母さんが非常に苦んで居る。早く戦争を止めて家に歸れ」といふやうなことが書いてありました。その種の宣傳ビラ、或は反戰的の宣傳ビラといふものは戦時ばかりでなく、今日内地に

も相當来て居ります。今廣島、神戸あたりに兵隊が澤山居つて、これから船に乗らうとする前暫時の間あそこに駐屯して居りますが、そこに可なりバラ撒かれて居る。又ピラなんかも貼られて居る。樂書などもあります。さういふやうに非常に宣傳の手が廻つて来て居るのであります、これに對しては一面日本自体警戒をしなければなりません、又積極的に支那軍の方に對しても色々の宣傳をやつて居る。この間は上海附近で敵の捕虜が2人日本の病院で大事にして貰つて居る寫眞をピラにして、而もその寫眞は、日本の綺麗な看護婦が2人附いてサービスして居る。日本ではこんなにも大事にしてくれるのだといふ文句の書いてある寫眞を上海附近でバラ撒きました所が、忽ち5,60人からの者が降参して來たこともある。單にそんなことばかりでなしに全体的に日本の眞意を知らせる。さうしてあの國民黨政府の間違つて居るところ、誤れる國民政府の犠牲となつて働いて居るところの支那軍に覺醒を促し、戰意を失くさせるといふやうに仕向ける工作を講じて居るのであります、これ亦美事に成功するものと思つて居ります。

それで戰は今日迄相當苦戰を致しまして、隨分澤山の死傷者も出來ました。毎日々々の新聞に第一線の目覺しい活躍振も出て居りますが、その半面には名譽の死傷者も澤山出て居りまして、犠牲も隨分多くありましたが、併し最早先は見えて居るといふこと、この支那に對する戰爭ほど敗けるといふ心配が最初から全然なく必ず勝つといふ確信の下に對抗することの出来る戰爭行爲といふものは恐らく今迄にない位でありまして、今回の戰爭はその規模に於ても兵力に於ても日露戰爭に負けない位の大きさのものでありますけれども、日露戰爭當時と違つて、完全に勝てる戰であるといふ非常に大きな確信と安心とを持つて對することが出来るといふ状態になつて來て居るのであります。それだけに國民の安心が却つて緊張を缺くといふやうな嫌がありはせぬかとも思ひますけれども、併しながら何れにせよ、我が軍が勝つことの出来るといふことは何よりの條件でありまして、これだけは何でもかんでも目的を達しなければならぬ性質のものであります。唯將來これを如何にして行くかといふことが問題であります。戰爭は勝つがあとがむづかしくなるやうでは困る。

そこで大体我々としては、この事變の主たる意義といふものをはつきり認識して置く必要があるのであります。あの暴虐極むところの支那を膺懲するといふので支那をやつゝけるのだといふ風に皆が思つて居りますが、この暴戾無道の支那をやつゝけること、固より當面の問題として必要でありますけれども、併しその背後にはもつともつと深い根柢がある。而もロシアの極東赤化の魔手が支那に如何に根強く働いて居るかといふことを見ましたならば、日支事變は決して簡単に片附ける譯に行かないのであります。大体この事變の本質はどちらかと申すならば、これは極東に於ける日本とロシアとの思想戰の爆發したものと云へるのであります。元々蘆溝橋で事變が勃發しましたが、これは民衆に根強い排日抗日の思想があつたからであります。出發が思想戰であります。それが愈々押へ切れずして武力戰迄發展しましたが、一体武力戰がこゝで一段階がついて終りましても、次に残るものは依然として根強い思想戰であります。既にロシアはこのドサクサを利用して益々爪牙を磨きながら支那内部を攪亂し、平素の極東赤化の目的を遺憾なく達する如く入り込んで來て居る。それで日本としては元々滿洲の隣接地であるところの北支が共產主義なんか禍ひされては困る。あそこが明朗な土地となつて滿洲が安全に建設せられるやうに、特に重要な一線として望んで居つた結果こゝに來た譯でありますから、將來とも苟もこのロシアの赤化の手がどんどん擴がつて來ることになつたならば、日本は斷じてこれを放置することは出来ない。要するに今度は敵は支那を通してその奥に洗れて居るところの共產黨と戦ふといふことが最も重要なものとして残されるのであります。これが延いてはロシアと日本との間にどんな問題が醸されて來ないとも限らない。元々ロシアと日本とは根本的にその思想國情共に相容れない。所謂不具戴天之敵であります。これが直接にロシアと

打突かることにならないで國際情勢と近代戦の特質といふやうな關係から、極めて変則な戦となつて現はれて來て居る。これからの戦争といふものは國際間がどんなに險惡な状態になり、所謂一觸即發の危機を孕むといふやうな情勢にあつても、昔のやうに直ぐに武力戦が始まるといふことはないのであります。それといふのは歐洲大戰に依つて8百萬の人間が死に、2千萬人からの人間が不具者となり、4千億の大金を使つて自茶苦茶に歐洲がされました。あの創痍が今尙癒えて居りません。今日まだ人類はあの大戰の影響に苦んで居るのでありますから再びああいふ事件は繰返したくない氣持が何人の頭にもある。おまけに今日の軍備といふものは昔とは違つて居る。30年前の歐洲大戰時代よりは兵器その他が非常に進歩して來まして、今日の優良な兵器を用ひて全部これを展開して武力戦をやるといふことにしたならば、地球上にはそれこそどんな慘憺たる有様を呈するか分らない。恐らく人類の半分以上は殺傷せられ、今日迄築かれた文明は根柢から覆されてしまふのではないかとさへ思はれるのであります。それを想ふと滅多に戦は出來ないと言つて、皆が怯えてしまつて手出しはしなくなる。併しながら何と申しましても國際間には思想的、經濟的に戦はなければならぬ氣運や情勢は一ぱい鬱積して居る。それでこれを如何にするかといふと決して單なる、武力戦だけではいけない。

それで武力戦が怖いから自然お互に頭を挫つて所謂智能戦といふものが展開されて來る。思想戦、經濟戦、外交戦、政略戦、あらゆる秘術を盡して、相手國を武力戦でやつけたと同じ程度に弱らせるといふ風に仕向けるのであります。さうしてそれで尙押へ切れないところは、所々出來物が吹き出る如く爆發してスペインの如き動亂となり、或は日支事変の如きものとなつて現はれて來るのであります。偶々スペインの動亂などが起りましても、列國があれを動機として戦争が勃發するかといふと、さうではない。あの内面に援助の手を伸ばして、事實はスペインを舞臺として列國が小ぜり合ひをし乍らわづかにうさ晴らしとやつて居るのです。初めはお互に武器彈藥だけ補給して居つたが、終ひには義勇兵を出す。それも單に兵隊だけでなく飛行機を出し、戦車を出し、潜水艦を出し、地中海ではあといふやうにロシアの艦が沈められるといふことになつて來る。さうなつても戦争は起らない。矢張り本當の戦争は怖いからやらない。殊に斯うして列國が益々軍備を増強してお互の間にバランスが取れて來ると、尙更戦争は出來なくなる。相手をやつたならば自分もどんなにやられるか分らないといふ心配がある。唯こゝに軍備の懸隔があつた場合には戦争の起る危險があります。イタリーはエチオピアをやつてしましましたが、エチオピアは軍備がない。直ちにやれるからやつた。あれが強い國なら手出しは出來ない。如何に軍備の懸隔があることが危險であるかといふことがこれに依つても分るのであります。

それでロシアにしても今直ちに日本と開戦するといふやうなところには先づ行かぬものと思つて間違ひありません。苟も日本の軍備が相當である限り、唯危險なのは、この戦争で日本が何十億かの金を使ひ、又兵器、彈藥等を使つてしまつて空っぽになつた。非常に弱つて來たとなりますと、その時こそロシアは直ぐに起つて日本をやつてくれるかも知れぬ。要するに軍備の懸隔が出來るからであります。そこで日本としては斯ういふ時機になりますと、益々軍備を増強する必要が起つて來るのであります。大体日本はロシアに比べますと、とても近代的國防力、軍備といふ點に於ては、比較にならぬやうな状態にあつたのであります。ロシアはあのスターリンの獨裁下に於て大きな國家統制力を用ひ、國民の生活を犠牲に供して迄軍備を徹底的に充實擴張しまして、今では世界無比と言はれる大陸軍を持つて居ります。飛行機も今日では6000臺、戦車その他、あらゆる兵器、機械力は實に老大なものであります。斯ういふ場合に日本が吞氣にして居りましたならば、いつ何時戦が起るかも分らぬ。矢張り向ふ並にはやらなければならぬといふので、軍備充實の計畫を樹て向ふに匹敵するものを今年から造りかけやうとしてゐた、ところがその建設に使ふべき物と金を事變の爲にあべこべに今消耗して居ります。だか

から段々ロシアとの間の危険性が増して来る譯であります。

これを防ぐにはどうしたらよいかと申しますと、この金を徒らに消耗する方面ばかりに使はないで、例へば單に飛行機を澤山殖やすといふだけでなく、國家全体の而も國民の精神といふものを、所謂國家總動員の体制に持つて来る。さうして戰爭に直ちに応じられる國民意識と國家体制とを整へるといふやうなお膳立をこゝに完成しましたならば、數年後に萬一ロシアとの間が險惡になりましても、こちらは何等の心配なく向ふをぐつと押へることが出来るのでありまして、さうなつて来たならば今度は武力戦が行はれないこととなります。結局武力戦は、軍備といふことは必要であるが滅多に行ふものでないから、それが思想戦とか政略戦とかいふ形になつて現はれて来る。だから將來國際間が愈々むづかしくなりましたならば、國家としてはあらゆる力をこの方面に注いでこの武力以外の戰爭に敗けることにならないやうにしなければならぬのであります。今日事変以來所謂舉國一致の體勢が現はれ、誠に心強い次第であります。これが將來長い期間に互つて、いつ迄も持続せられ、而も第一線も國內銃後も共に一体となつて、日本の本來のこの極東に於ける使命といふものを十分に自覺し、この事変に對応して行かなければならぬと思ふのであります。

大体日本は支那を滅亡させてしまふとか、或はあそこを全部日本の領土にしようとかいふやうな野心は絶対に持つて居りません。要は彼が今日迄の誤れる政策に依つて抗日意識を煽り、暴慢な態度を取つて日本に反抗するといふことを止めさへすればよいのであります。彼が良き隣國でありましたならば、日本は既に北支にもどこにも權益を持つて居るのだから、安心して極東の平和を保つことが出来る。それを絶えず攪亂し妨害して居つたのが今の國民政府でありますから、これは徹底的に腐懲を加へて反省を促し、反省が出来なければこれを潰してしまつて、本當に日本と提携し得る者をこゝに造り上げなければならぬのであります。さうして我々は將來に向つて飽く迄も舉國一致で進んで行かなければならぬと思ふのであります。大体私のこの時局全般に對する話はこれで終ることに致します。

最後に皆様始め所謂舉國一致で非常に熱誠なる銃後の後援をして戴いて居りまして、第一線の將兵は皆様御承知の如く、斯くも勇猛果敢に活躍して居る次第であります。我がこの第一線の將兵をして飽く迄も活躍せしむるものは、一にこれは日本々來の傳統的精神に依るのでありますけれども、又一つはこの銃後の後援の力であります。支那の軍隊の如く所謂軍閥の私兵であつて、自らの生活の爲に働いて居るとか、已むを得ず強制力に依つて働いて居るとかといふものとは違ひまして、國民の代表となつて君國の爲一死奉公するのだといふ立場で働いて居る日本軍としては、この國家郷黨、内地のことといふことは1日として忘れることは出来ないであります。國家、或は家郷と離れた存在としての軍隊などは存在の意義を有ちません。彼等は戰場に於ても絶えずあの歡呼の聲に送られて行く情景を險に描きながら行動して居るのであります。日の丸の旗を立てて戰鬥して居るといふのもその時のことを忘れられぬ爲でありまして、あれを翳して行動して居りますと、國民の萬歳々々といふ歡呼の聲と一緒に行動して居るといふ如き感がするといふ位に、大きな感激を味はうさうであります。斯の如き心情を察しましたならば、國民の本當の熱意といふものが如何に力強いものであるかといふことが痛切に感じられます。將來共に單に慰問袋とか何とかいふ物質的のことばかりでなく、本當にこれを精神的に後援する、支持するといふことが絶対に必要であり、又望ましい次第であります。甚だ雜駁でありましたが、これを以て終ります。(拍手)